礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行 編集
若松高校新聞部
印刷所
吉田印刷所 ㊆5424

御卒業
おめでとう
新聞部一同

昭和四十三年度卒業生へ

若い力に自信をもって

高校三年生という身から社会人一年生、大学一年生となられる三年の皆さんは、全てが未知である明日へと、限りない夢を馳せていることと思います。転んでも、もう誰も手を差しのべてくれない、そんな明日かも知れません。でも皆さんは、若さとバイタリティーを持って、それにぶつかって行くと思います。そんな皆さんの明日がすばらしいものでありますように。

三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。いま皆さんの目の前には、希望と不安の入り交った壁が大きく立ちふさがっていることでしょう。そして、人生における一つの転換期にいる皆さんは今までの楽しく、そして苦しかった三年間を懐かしく思い起こすと同時に、これから先をいかに過ごすかと、将来に大きな夢を描いておられることでしょう。

入学当初に感じた三年間と卒業間際に感じる三年間の長短の差はどんなに大きいことでしょう。しかし、高校生活三年間には、随分いろいろな思い出があると思います。入学式、歓迎遠足、キャンプ運動会、クラスマッチ等、今から考えるとすべてが楽しい思い出となっていることでしょう。また、一年六回の考査では、単位の心配をしながらも勉学に勤しんだ日々夜遅くまで汗を流し、苦しみと戦ったクラブ活動、クラスの友と一致協力して作った山車、また卒業を間際にして、長髪の問題に熱論を交した生徒大会など、どれをとっても皆さんには、懐かしい思い出でありましょう。

しかし、この三年間は、自分にとって満足できる三年間であったと言える人が、何人いるでしょうか。おそらく、ほとんどの人は、あれがしたかった、これもしたかったと思っておられるでしょう。

長いようで短い三年間。学生生活で一番思い出となる高校生活。この大切な毎日をすべての人が、有意義に過ごして欲しかったのですが…。皆さんは、若高を卒業し高校生活にピリオドを打ちました。これからは社会人として、また大学生としての新しい人生がスタートします。そこで皆さん、この若高で身につけたすべての事を生かし我々の先輩として大いに活躍して下さい。これからの皆さんの大いなる活躍に期待しております。本当に、御卒業おめでとうございます。

究理の態度を

学校長 石坂 繁

五百二十一名の新卒業生諸君、卒業おめでとう。

高校の教育は、単に国民として必要な素質を培かうだけでなく、将来国民の中堅以上の指導者、社会生活の推進者としての力を、身につける事にある云々と、入学式に力説したつもりであるが、思い出せますか？自己の三ケ年間における進歩変化の足跡を多忙な受験前のひと時をさいて追想されんことを望む。

さて、諸君の本校在学中の三ケ年間の大局的な関心は何だろうか。一年頃から、しゅん動し始めた大学問題、実業社会の合理化問題等は主たるものではないか。前者は進学希望者の最大関心事だろうが、国内、国際的にし、人の職業として高い尊敬を受けていると言われてきた大学教授への世評、価値が動揺し出した事だけでも（実態は極く一部分だけだろうけれども）諸君にとって、大きな不安と損失だと思う。進学、就職希望者何れにも関連する実業社会での生産、流通、金融上の合理化（ひねくれた見方でなく素直でなく、素直な解釈に立って）の波は、我々の身辺に便利（豊富、低廉、精巧、巧緻）さと危険度（公害、被害等）を加えつつあるようである。これらを如何に解決するかは衆智の集積検討に待つとしょう。私はこれらの事態に対処する個人として次の様に感じ、諸君に提議したい。学生の行動にしても、合理化に対する反応においても、自己中心的であり、感覚的に物事を判断し、究理の態度に欠けてはいないか？私どもは、「なぜ、なぜ」を連発して、現に困惑の感を、抱かせたであろう幼年時代の姿を忘れたかの如き態度を、取っていないか？

心からおめでとう

生徒会長 野依伸介

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。ところで、皆さんにとってこの三年は何であったか……？僕が自分自身のこの二年間をふりかえってみても、それはまさに大学入試のための、いわゆる詰め込み式教育制度の中で何も考えることも出来ずに、ただ何となく過ごしたような二年間なのです。だから、今僕が皆さんの事を考える時、もしかしたら皆さんも僕と同じなんではないのかなと思えてなりません。

しかし現実問題として、大学へパスするためには、また、よい所へ就職するには、やはり矛盾を感じてはいても現在の社会的巨大なシステムには抵抗し得ないのです。そして確かに、よく学び、教養をつけ自分の目的へ進むのは、とてもりっぱな事なのかもしれません。だけど一体よく学び、教養をつけるというのは、現在のような高校教育のことをいうのでしょうか。大きな疑問です。

ところで三年間に知り合った友達は何人おられますか。同じクラブのあいつと、同じクラスだったあいつと……。名前をあげて、二百人いや五十人……十人果たして何人いらっしゃるでしょうか。あいつは同じクラスだったが、話をしたこともない、そんな人が案外多いんじゃないでしょうか。僕もそうだけど、寂しいことだと思います。

高校と予備校とは違います。勉強と詰め込み式教育とは違います。ただ、教養を身につけてもそれは人間的には何の益にもならない。それは、人形にとても美しい着物を着せても、その人形には心がないのと同様だと思います。詰め込まれた教養、そしてそれによって得た学歴によって現在の日本の社会機構の内では、きっと利を得ることができるでしょう。だけど、一体、それでいいんでしょうか。これではまるで、人間の形をしたコンピューターと、同じではないですか。

最後に、僕よりも一年早く、ある意味では灰色のあわれな高校生活から、脱出することのできる三年生の皆さんに、心から「卒業おめでとう」のことばを、お送りします。

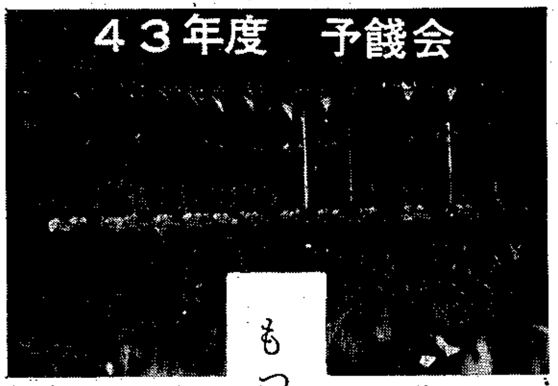
強固な意志を

三年学年主任 岩尾一夫

まず卒業生諸君に心からお祝いを述べる。勉学の苦しみ、運動会や修学旅行等の思い出、それぞれに感無量なものがあろう。この三年間、大体において平穏無事に過ぎてしまったが、これから先は険しい道がひかえている。これまでは、学校でお膳立てをしてくれた事についてゆけば、それで済ますこともできたが、卒業後は自分の道を、自分で切り開いてゆかねばならない。進学の場合、東大等の入試中止は、他大学に影響して昨年以上の激しい競争を展開し、大学紛争下の緊張した中で入試が行なわれる大学も現われ、厳しい情勢にある。充分に実力を発揮して栄冠を獲得していただきたい。就職する者は、自分に課された仕事が、たとえそれがどのような仕事であろうとも直接会社の利害につながっているのだ。そこには生半可なことは許されない事を銘記すべきである。

これまでの甘やかされてきた生活に馴れた君達の中には、ややもすれば、どうにかなるんだという感じを抱く者が意外に多い。最近の大学紛争に於ても、学生に対して甘ったれるなという声をよく聞く。世の中を甘くみてはならない。何れの道に進もうとも最後は他人には頼れない。如何なる苦難にも堪えぬいてゆく強固な意志、どのような場合でも、どちらの方向に進むのが正しいかを判断する力を養うことが大切である。それには不断の努力が必要だ。卒業後は社会は君達を一個の独立した人間として扱うのであるから、自分の為すことには責任を持ってもらいたい。口先で立派な事をいっても、実行が伴なわなければ何にもならないし、社会から見放されてゆくであろう。

君達が若さをもち、若い力に自信をもって、前進すれば、その洋々たる前途は、開かれてゆくであろう。


43年度 予餞会

もっと充実したものに

去る二月一日、本校体育館に於いて、今年度最後の娯楽行事として、三年生の追い出し会である予餞会が行なわれたが、果たして期待に添えたであろうか。娯楽性に於いても、本質的にも成功だったといえようか。

今年度の予餞会で一番目立った点を上げると、エチケットをわきまえない観客の態度であった。広い体育館内で演技をする者の声がハッキリと聞こえなかったのは、演技者の声が小さいのではなく、観客者の騒々しさが原因で聞こえなかったのである。もう少しエチケットというものを考えてほしかった。

次に進行にそって反省をまとめると、次のようになる。

演劇は私語も少なく、かなりよく観ていたようだが人形劇となると、例によって（?）到る処で私語が始まった。内容的にも、一幕ごとの間を取り過ぎて結局、何を意味しているかが、かすんでしまったようだ。合唱は私語のため折角の歌が聞こえない。エチケット違反も甚だしい。一年生の世界の音楽めぐりも、舞台装置等はよくやっていたようだが、やはり流れがスムースに行かず、練習不足の感が多分にあった。フォークソング、エレキ演奏は、舞台と観客とが一体となって皆、楽しんでいたようであるが、やはり中には、口笛を吹いたり、トイレットペーパーを、投げる人がいた。ユーモアも結構だが、静かに聞きたいと思っている人が、いる事をお忘れなく。

以上反省を述べてきたが、考えてみると、毎年反省の内容は同様である。つまり、全く向上がなかったというわけである。一度でいいから、充実した予餞会であったと、書いてみたいものである。

強まるクラスの和

―バスケットクラスマッチ―

選手宣誓。「我々はスポーツマンシップにのっとり、勢々堂々と戦う事を誓います」

肌寒い空気の中に、選手代表の威勢の良い声が体育館いっぱいに力強くひびいた。生徒のざわめきも静まり、緊張した空気が流れた

去る二月七日、八日本校体育館二階において、バスケット、クラスマッチが行なわれた。第一日目は、L・H・Rの時間と放課後とを利用して、四十分間の開会式を行ない、そのあと試合は三時より始められた。その日は一年男子の二試合と女子一試合、また二年男子の二試合が行なわれた。第二日目は、残りの試合がすべて行なわれ、決勝戦準決勝戦が、熱気を含んだ雰囲気をさらに高めた結果は次のとおりである。

▼優勝
一年男子　九、十組
　女子　七、八組
二年男子　六組
　女子　二組

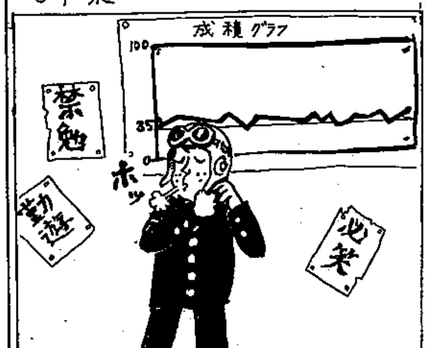
▼準優勝
一年男子　一、二組
　女子　五、六組
二年　男子　七組
　女子　三組

館内は歓声でいっぱいだった。中には、試合に花をそえるつもりか（?）職員対生徒の試合も行なわれた。教師の名誉にかけて、するどく攻撃してくる先生達に、生徒の必死の抵抗もむなしく、おしくも破れてしまった。また生徒同士の試合も、ボールの動きを追う選手の一挙一動に、応援者の歓声の絶えるひまがなかった。手をたたいて喜ぶ人がいるかと思うと、眉にシワをよせて舌打ちするものもいる。

先日、体育担当の大庭先生が感想を次のようにのべていた。「そもそもバスケットというものはダネ、団結あってのゲームなんだ。選手同士のチームワークはもちろん選手と応援者との団結が大切なんだ。技術的なものよりそういった面の方が大切と言えるのじゃないかな。それから今度のクラスマッチの練習法なんだが、ちゃんと割り当てを決めているのに、その利用の仕方が非常に悪かった。それから一年男子のクラスで棄権するという問題があったがあいうのも、もっと考えるべきダロウネ。」

一般に技術面に於ての反省すべき点は、ファールが非常に多いということだろう。キャーリングやパーソナルファール。特に女子に多いヘルドボールなど……。まだまだ、技術の面で不十分なところが多いと思った。しかし、クラスの和、団結力が高まったという利点は、他の何よりも大いに得るところではなかっただろうか。前にくどくどと言った技術的な面は、体育の時間などでも、個人練習等でもできるだろう。しかし、クラスマッチを行なう経過において、〃団結〃という貴重なものを得ることができるのだと思う。以後もこういう機会を大いに作っていきたいものである。

◎卒業 若高戯評



「三年間の低空飛行が やっとおわったよ〜」

礫陵言

本校第二十回卒業生の皆さん、卒業おめでとう。卒業生の回数が二十回ということは、本校が男女共学、総合制の新制高校として発足してから、二タ昔経過したわけである。この間商業科が二島に独立開校して、総合制はくずれたが、旧若松市内の唯一の県立普通高校として、区内小中学生の憧れの高校として発展してきた▼昭和三十八年の本館大火は、貴重な図書、文書の消失はあっても、全面改築への足がかりを作って、体育館兼講堂、図書館を含む近代的装いに変貌する結果となった。寒風皮膚を裂く旧体育館での卒業式や、破れガラスの教室で行なった課外補習の昔を偲ぶと、正に今昔の感に堪えない。諸君はこういう恵まれた教育環境と施設の中で高校三年を送れたことに、素直に感謝の念を新たにしなければならないと思う。▼さて新しい酒は新しい革袋にもらねばならぬという。近代化された施設の中にはぐくまれた諸君の中身は、外観にふさわしく、真に近代化され、高度化されたであろうか。近代的とは、合理的と同義語でなければならない。諸君の日常生活が合理的に営なまれ、合理的精神に貫ぬかれていたかどうかはまだまだ疑問とせねばなるまい▼諸君は学校で達せられなかった精神の確立を、社会で、大学で、続けることになるが、その社会なり、大学なりは、また非合理と暴力が、一般化された印象さえ与えている。このような社会や大学にいかに対応してゆくかは、かかって諸君の自覚にある。われわれは、いま不安と期待の混交する複雑な気持で諸君を送ろうとしている▼一、二年の諸君は、それぞれ進級して、次代の若高を担う責任を負うことになる。四月には新一年生四七〇名が、諸君の後輩として本校の門をくぐる。在校生はよりよき校風と伝統を次代におくりわたしていかねばならない。その意味で大いに奮起して、新一年生に模範を示してほしい。それが若高百年の発展に寄与することになるわけである。（よ）

盛り上がらぬ会場

43年度予餞会

去る二月一日、本校体育館に於いて、本年度最後の呼び物として予餞会が、みんなの期待のうちに行なわれた。が、その結果は如何に……！

三年生に喜ばれる充実した内容が、得られただろうか。また、観客の態度は正しかったといえようか。もう少し、これらの点を検討する必要があるのではないだろうか。成功・不成功はともかくとして、もっと予餞会というものを有意義なものにしたいものだ……。

予餞会とは、俗に「三年生の追い出し会」と言われている。それゆえに、これから先、大学へ職場へと第一歩を踏み出して行く三年生にとって、これを高校生活の良き思い出の一ページとして残してもらいたいと願っているのだが、結果としてはどうであっただろうか。三年生の期待にそえるものであっただろうか、また、例年よりも進歩の色が伺われただろうか。その内容を、順次検討しながら見て行きたいと思う。

まず最初、一・二年生の拍手の中を三年生の入場。照れながら頭をかく人、恥ずかしそうに肩をすぼめている人など、様々な入場であった。三年生にとっては、この恥じらいもまた、格別なものであったろう。そして、次の学校長あいさつ、生徒会長あいさつ、相も変わらぬ項目。しかし、これも卒業生の方々には、またかという嘆きよりも、会の雰囲気の中での興奮の方が大きく、緊張した面持でこれを聞いていたことであろう。そのあと、徐々に会の幕開きとなった。

一番目には、北九州大会で二位となった演劇部の「学校」という劇があった。これはとても教訓的な劇で、自分の意志の如何にかかわらず決められたコースを行く人間に強制されていきつつある傾向つまり、人間が個性というものを失いつつある状態を表現した作品で、我々はもちろん、特に先生方教育者にも考えさせられる劇であったといえる。

次に、三年生を代表して、松野さんと荒川君がコンビで「フォークソング」を歌ってくれた。それと共に、鑑賞者も口ずさみながら、あるいは、ハミングをしながら、楽しそうに聞いていた。この間飛んだテープの数、数えきれず。中にはトイレットペーパーまでが、飛ぶ程であった。この中で最大の盛り上がりといえば、やはりシャレ歌であろう。ちょっと汚ないが皇太子殿下の歌（はよう、こうたいしでんか）が特に印象に残った。これが終ると、次第に私語が多くなった。その為次の人形劇部の「別れ」は、やり直しをせざるを得なかった。さまざまな別れをユーモアに、またエキゾチックに表現した劇であったのだが、とても残念なことである。もっと、やっている者のことを考えてほしいものだ。

北九州二位の実力？

休憩をはさんで、一年生の出し物「世界の音楽めぐり」。順々に世界の民謡を歌い、その歌と歌の間にコントを織り込むなど、多彩であった。しかし、練習の不足とアイディアのなさが、何といってもこれの欠陥であった。これが初めてという為でもあったが、三年生の最後の楽しみであり、思い出となるのだから、もっと練習して皆に聞かせるものをやって欲しかった。

その次に合唱部の「女声男声合唱」が催されたが、出演者が一生懸命に行なっているにもかかわらず、聴衆は以外に冷たかった。皆で歌う時でもわずかの人しか参加せず「一緒に歌って下さい。」と何度も言われる始末だった。

この会は三年生へのはなむけの会であるので、一、二年生達がこれをぶちこわしては何にもならない。

最後に、若高名物？のエレキ演奏。非常に迫力があり、また、皆興味があるからか、この時ばかりは静かに聞いていた。しかし、演奏時間が長くなるにつれて。「もっと皆の知っている歌を歌えばいいのに。」とか「日本の曲も歌ってくれないかなあ。」などという声も聞かれた。なるほど、歌い手は変わったものの、曲はすべてが似通っていた。だからこんな声も出たのであろう。

一応、演技が終了したが、この会をふり返ってみると、演技者にもいくらか手抜かりがあったが、観客がもっと協力してほしかった。これら悪い点を改善して来年度の予餞会も成功させよう。

清潔な校内に

<校内ルポ>

裏方さん——そんな言葉がぴったりするような人——いつも目立たない所で毎朝、生徒より早く来て働いている、私達の便所の掃除をしてくださるおばさんの姿である。朝早く、おばさんの姿を見かけたことがあるだろう。そんな時、「おはようございます」と言うと、そのやさしそうな顔をぱっとほころばす。

おばさんは、寒さには、慣れているから平気だという。また、「朝は早いんでしょう？」と尋ねると、「いえ、たいしたことはありませんよ。」と、ほほえみながら答える。こうなると、生徒の方が恥ずかしくて、遅刻なんか、できたものではない。

だが、そのおばさんにも、「頭痛の種」なるものがある。それは他でもない、生徒のいたずらなのだ。壁に、いかがわしい落書きをする、欲求不満らしき人がいたり何が楽しいのか、窓から、トイレットペーパーを投げ捨てる、不届き者等が、跡を絶たないと言う。

内助の功　中井さん

そういう生徒には、全く手を焼くそうだ。よく、「高校生にもなって！」と言われるが、これこそまさに、「高校生にもなって！」である。壁の落書きは、小学校や中学校にもある。つまり、そういう部類の人は、小学生や中学生と、何ら変わりはないのである。もっと、自覚を持って、自分のする事が、良い事か悪い事かを考えて、行動すべきである。本人は、ほんの冗談でした事も、他の人にとっては、ひどい迷惑になることを、よく考えて欲しい。今後、落書きや、その他、いたずらをしたくなったら、やさしいおばさんの顔を思い浮かべて欲しい。そうすればきっと、自分のしようとしている事が、おばさんをどんなに困らせるか、わかるだろう。

次に、校内を見て歩いた結果、最も強く感じた事。それは、「あ、女子はいないのか！」白くほこりをかぶって、すみにゴミを貯めた廊下が、うらめしそうに見つめる。それにゴミためと化した水道口。どんどん捨てられるゴミが、貯まり貯まって、つまったために、水があふれそうになった水道口を、よく見かけるだろう。

他校を訪問して、いつも感じる事は、この清掃の状態の悪さである。他校では、木造の古い校舎でも、ゴミひとつないように、掃除がゆき届いている。それにひきかえ、我校は、鉄筋のりっぱな校舎にもかかわらず、ほこりとゴミだらけである。もちろん、これは、女子ばかりの責任ではない。男子の方が、多いのだから、男子が率先して、校内の美化に気を配らねば学校が美しくなるはずがない。

三年間の努力が実って、無事、進学、卒業する皆さん、いつも、この事を、忘れないようにして欲しい。

〈三年間を顧みて〉

忘れられぬ部活動

入学してから三年間。高校生活に終止符を打たれた皆さん。そのレッドラインに悩まれ、赤ザブトンに追いかけられた、波瀾万丈の思い出を三年生を代表して程一席語ってもらいましょう。

ではお二人さん、どうぞ！

最近になって、やっと、自分はこの三年間という過去の中で、何かをやってきたのだと、実感として感じ始めた。そして、それは、いやその中には自分の手によって開かれていったものもあれば、他によって指標を与えられたものもある。だが、自らは組織される事を嫌いある時は〃賭け〃又〃流れ〃もしたと思う。そして、クラブ活動という立場においては、本当にクラブに入っていてよかったと今、思っている。何故ならば、部という場は〃会話〃がある〃活動〃があるから。でも、それはもちろん、自分達の手で雰囲気をつくっていくものだ。それが楽しいのではないかと言えると思う。自分は新聞部に〃賭け〃ていたつもりだから尚、いっそう、そう感じるのかも知れない。

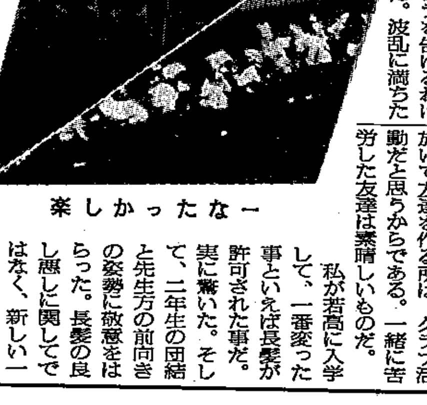
又、後者の〃流れ〃という言葉は〃俺は、俺自身に賭ける〃という自分の生活信念が、理解されず悩んだその結果生み出されたものである。自分が思う事、行なう事すべて、組成（自分はあえてこう言う）の中から非難され、軽視されてきた自分の、組成への敗退への叫びである。そして、この言葉が、自分の二年の最終時期以来の生活態度である。

だが、自分は、今、言う〃この言葉は、使われるべきではない、使うべきではなかった〃と、自分の意志の弱かった悔として感じたことは、ただ、それぞれは各々の〃考〃を〃動〃を持つべきだと思う事である。

高校生の時〃何かをした〃という事が、自分の精神に〃何か〃として残る。いや、残しておきたいと思うのである。

◇　◇

極く平凡な、私の高校時代も終った。今思い出すと楽しかった事苦しかった事が、まるで一瞬の出来事でもあった様な錯覚さえする。これで十二年間の私の学生生活すべてにサヨナラを告げるわけだ。波乱に満ちた高校生活ではあったが、今考えると、自分もずい分成長したと思う。



楽しかったなー

三年間で私の楽しかった時期と言えば、何といっても二年生だ。クラブ活動も思い出に多く残っている。何事に関しても一番張り切っていた頃だと思う。遅くまで残って原稿を書いたり、話し合ったり……。苦しくて何度やめようと思った事か。平気な顔でスラスラと記事を書く先輩が、とても偉く見えたのもこの頃だ。今、もしクラブ活動の問題で、あの時の私の様に悩んでいる人がいたら、ハッキリ言ってあげたい。どんどんクラブ活動をやるべきであると。クラスも毎年〃変わる高校に於いて友達を作る所は、クラブ活動だと思うからである。一緒に苦労した友達は素晴しいものだ。

私が若高に入学して、一番変った事といえば長髪が許可された事だ。実に驚いた。そして、二年生の団結と先生方の前向きの姿勢に敬意をはらった。長髪の良し悪しに関してではなく、新しい一歩が開けたと思ったからだ。執行部はじめ皆に拍手を送りたい。

そして、今、三年間を振り返って考えると後悔することだらけだ。同じ失敗を二度とくり返さないように、自分の道を歩んで行きたい。でも皆さんは、意義ある高校生活を送っていただきたい。

主張

若者の誇りを！

毎朝登校し、勉強をし、テレビを見て寝る。毎日がただそれだけの繰り返しに過ぎない。これが現在の高校生の生活である。全てが曖昧で、全てが受身である。これでは大抵の人間は息が詰まってしまう。我々の若さは不完全燃焼をおこし多くの中毒患者が続出するはずである。いや、もうすでに免疫になってしまって不満さえ感じなくなってしまっているのではないだろうか。他人が作った道を何のてらいもなくただフラフラ歩いて行く。そこにはもう自為的進歩など微塵も残っていない。一体何が我々を、リモコンのロボットのようにしてしまったのだろう。我々が今頃、経験してきた○×式の答案用紙が、我々を、与えられた物から選択する能力だけで自分で創造する能力に欠ける人間にしてしまったのだろうか。何にしろ我々の行動も思想も、縮小されてしまった。試験が近づくと必死になって勉強し、終ると何も考えないで遊ぶ。そしてまた勉強…。

「考える」ということを忘れてしまった人間は何の値打ちもない。同じ「考える」にしても我々のそれはあまりに幅が狭すぎる。同じ制服を着ているからといって大量生産された罐詰のようになってしまってよいのだろうか。レッテルは同じでも中味が全く異なる、罐詰はそれでは成り立たないが、人間はそれでこそ人間であると思う。我々はもっと自己というものを意識してよいのではないだろうか。自己の思考に基づいて行動する自由、これは若者だけに与えられた特権である。常に他人の目を意識し、仮面を被った若者は何の魅力もない。我々は、もっと自分自身の心の充実を持ってもよいはずだ。かと言って、がむしゃらに好き勝手なことをしてもよいと誤解してもらうと困る。自分の思ったとおりに行動するには、同時に責任が伴ってくる。校則を尽く破ることは、自由ではない。単なる我ままに過ぎず反逆児を装ってみても滑稽な意志薄弱児に過ぎない。私の言う自由とはこんなちっぽけな事ではなくもっとスケールの大きいものだ。スケールの大きな人間とは、他人から受け入れるだけの人間、又は、自分だけの領域に閉じこまっている人間のどちらでもない。つまり個性的な人間だと思う。個性とは他人の存在があって、初めて存在する。他人との対話によって形作られていくものであるようだ「対話」、これも現在の我々には、限られたものになってしまっているようだ。自分の友人との対話を考えてみてもらいたい。この中にどれだけ真意のこもった本質的なものがあるだろうか。ガヤガヤと、騒いでいても、ふっと孤独感を、感じることはないだろうか？現在の若者は自分の真の姿を見せることをしない。仮りに見せたとしても、それはほんの一部である。当り障りのないコセコセした人間を感じさせる。その対話の内容は、全く貧弱である。スター、政治、友人の事、これらに通ずることは全て批評であるということである。勿論批評することも大切である。しかし初めに言ったように、与えられたものから引き出すだけでなく、もっと独創的なものがほしい。たとえ一言にせよ、そのことばに真意がこもっていれば相手はその中から何かを見い出してくれると思う。その精神的な対話を通して、相手の個性を理解し、同時に自分の個性をも高めていきたいものである。若者よ。今迄の殻を捨て、自分の本質が何であるかをもう一度見つめよう。そして、たとえちっぽけでも自分は若者であるという誇りを持とう。

手芸専門の店
しらき
若松区明治町

世界で一番進んだ視力測装置
ポラテスト　検眼機完備
アイチ眼鏡店
本町三丁目　TEL ㊄ 3312

長髪全面的に許可
生徒の自覚はいかに!!

自覚とは・・・
生徒心得を完全に守れ

▽頭髪の自由が許可され、男子諸君は一意気づいたところであろう。しかし、それによって新たに生まれてきた「自覚」の問題、これは男女を問わず、皆で考えて行かねばならぬ問題であろう。もし皆、自覚が出来たならば、その時こそ若高は、自分たちのものになるであろう。△

頭髪の自由が許可され、すでに三カ月。もう約五人に一人までが長髪にしてきている現在、本当にその生徒たちの自覚は出来ているだろうか。昨年十二月十六日に行なわれた職員会議での長髪の許可内容は次の通りであった。

※生徒の自覚という上に立ってかつ今の生徒心得が完全に守られた時点に立って全面的に頭髪の自由を認める。

ところが長髪をしている者の中にも、遅刻をする者、掃除をしない者が意外に多くいるようだ。つまりこれは一概に言えぬかも知れぬが、まだまだ生徒一人一人の自覚は出来ていない事を示している

長髪問題によって浮彫にされた〃自覚の問題〃これこそ長髪問題以前に我々が一番考えなければならなかった問題ではなかっただろうか。若高生の自覚のなさはまだまだ多くのところで見られる。例えば全校集会の時である。時間になっても全員集合しない。それに私語をしたり、ふざけ合ったりして整列しようとしない。次に授業中に内職をしたり、また勝手に学校を抜けたり、ずる休みをする。先生に会っても会釈をしない。これらすべて今一度ふり返って考え直すべきだろう。

今、君に〃自覚とは何か〃と質問すると君は何と答えるだろう〃自覚〃辞書には「自己を意識すること。証明されずに直接にしること。」と書いてある。このように自覚という言葉の表面だけしか考えていない者が大部分であろう。しかし、我々が持たねばならぬ自覚とは、もっと深く形や言葉で表わしにくいが、しっかりと筋の通ったものである。それならば、その自覚というものを我々はどのように表わせばよいのか……。

実際、それは大変むずかしい。しかし、その根本的な事はただ一つ、高校生としての責任と義務に従った行動をする事だ。この一見簡単に見える事を我々は行なってきただろうか。

風紀を乱すな

長髪許可後の問題として、髪をビートルズカットにしてみたり、高校生としてふさわしくない娯楽施設への出入や、一般にこの区別が明確でないといって高校生にあるまじき行ないをするなど風紀上の問題がある。先生方や父兄もこの点を大変心配しておられるようだ。しかし我々は今後長髪許可を無傷のまま後輩に受け渡すため、そして、若高の名誉、いや我々自身の誇りを傷つけないためにも、これら諸問題を起こさないように戒め助け合って行くべきである。

以上述べたように、今度の長髪をきっかけに若高の校風とまで言われてきた自覚のなさというものを深く反省し、改善していくことこそ、我々の努めであると思われる。

すなわち今、若高は一つの大きな転換期を迎えているわけである自覚を我々のものとしたとき本当の意味での生徒の、生徒による、生徒のための……」の張りのある学校生活が営めるのではなかろうか。

それにはまだ我々は、現在最も身近な問題であるこの〃自覚〃というものを深く考えなければならないのである。

どうも髪が気になるなあ

――第八回アンケート結果――
『文化祭』『修学旅行』に集中

第八回アンケート(十大ニュース)

年組	第1位	第2位	第3位
1.3	チ	イ	ホ
1.7	チ	ロ	ホ
1.9	ト	チ	イ
2.1	ヘ	チ	ト
2.5	ヘ	チ	ト
2.7	ヘ	チ	ト
2.9	ヘ	チ	ヌ

〔項目〕
イ 入学式　ロ 歓迎遠足
ホ 若戸大会　ヘ 修学修行
ト 運動会　チ 文化祭
ヌ 1、2年駅伝

去る二月十七日、十八日の放課後に一年（三クラス）、二年（四クラス）でアンケートをとりました。結果は、左図のようになりました。

× ×

表を見てもわかると思いますが一年においては、ほとんどの生徒が文化祭の項目にチェックしていました。理由としては「初めての文化祭」「三年に一度の盛大なもの」「各部の活動状態がよくわかった」等でした。二年生では、やはり、修学旅行に関心があり、「高校生活一度の思い出」「社会的にも学んだ」等の意見がほとんどでした。又、各学年を通じて関心の薄かったのが「校内マラソン」「生徒大会」「図書館完成」で、生徒が自ら感じるものが数少なかったことには以外で、二学年で大体意見は同じようになりました。

× ×

質問事項の内容は次の通りです「(イ)~(ヌ)までの中で自分が一番心に残っているものに三つ〇をつけて下さい」と、いうことでした。

各事項の感想・理由を挙げておきます。

(イ) 入学式
「すごく高校生活にあこがれていた」「高校生活第一歩の感激の日」「自分に一番関係が深い」「高校がどんな所か知らないという恐怖感が今も心に残っている」

(ロ) 歓迎遠足
「うれしかった、楽しかった」「入学してからの初めての遠足」

(ハ) 図書館完成
「きれいだと自然に読書する」「環境がいい。視聴覚教室もできレコードコンサートもできる」「もとは本をみるにも見にくかった」「広々とした図書館ができたことはうれしい」

(ニ) 生徒大会
「初めて知った」「発言に熱がこもっていた」「自分の思うことを述べ議論をたたかわすことは私達に必要だ」「対立が印象深かった」

(ホ) 若戸大会
「よその生徒と交流し楽しかった」

(ヘ) 修学旅行
「なんといっても高校生活で一度のこと」「高校生活のよい思い出となった」「新しい友達と一緒だった」

(ト) 運動会
「皆と団体生活ができた」「応援がとてもすばらしかった」「若者の力があふれていた」「みんな一体となって頑張った」「大接戦で練習不足がどんなふうになるか興味があった」

(チ) 文化祭
「毎日一生懸命準備し完成した時の喜び」「クラブとしての重要さを知った」「見たことと経験したことも初めてであった」「こんな大規模なものだとは思ってもいなかった」「三年に一度で各部ともよく出来ていた」「各部がどのようなことをやってきたのかよくわかった」

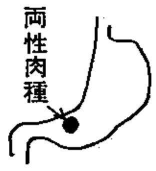
(リ) 校内マラソン
「女子のマラソンがないと思って入学して来たら予想がはずれうらぎられた様な気がした」「イカリにもえて走った」

(ヌ) 一、二年駅伝
「全力で走った」

〔抜萃〕

日野先生が入院
（保体）

血走った目、かん高い声で有名な日野先生が、胃ガンで入院される。胃に両性肉種ができているため、切り取らなければならないということだ。胃カメラを飲んだ時の気持を「苦しゅうて、苦しゅうてたまらん。二度としとない」と話していた。また「切腹せなならん」と、笑いながら話していたが……。



先生宅訪問
林 清照 先生の巻
日本史担任
行動に自信を持ち 責任を持つ

期末考査も終って、後は冬休みを待つばかりの十二月八日、私たち新聞部員五名は、日本史を担当しておられ十一月に結婚したばかりの林先生のお宅を訪問した。先生のお宅は、向洋中学校のすぐ前で近くに海があり、とても静かな所だった。玄関を開けると奥様が出ていらっしゃり、すぐに和服姿（大変よく似合っていらっしゃった）の先生も出ていらっしゃった。そして、奥の部屋へ案内して下さった。私たちは、部屋に入って少しおしゃべりした後、質問を始めた。

―出身地、出身校は―

甘木市出身。甘木小学校↓甘木中学校↓朝倉高校↓広島大学。

―教師になられた動機は―

高校時代から教師になりたかったので。だから、大学も教師になるための学校を選んだ。

―学生時代の思い出は―

友達との会話が多かった。高校生の時、歴史部に入っていたので三年の終りまでクラブ活動をした。

―御趣味は―

一応、何でもやってみたので、少しぐらいなら何でもできる。

―愛読書は―

「星の王子様」これは、生徒に勧めたい。我々に目をさまさせてくれるから。もう一度、純粋に物を考える事が必要だと思う。

―モットーとされている言葉は―

「自分の行動に自信を持ってやり、責任を持つ」

―尊敬する人は―

別にいない。尊敬する人とかいうのはわざとらしい感じがする。

―若高生をどう思われますか―

若々しさや純粋さはあるけれど、苦労せずに楽をしようとしている。もっと自主性・自律性がほしい。そして、先生たちとの会話が少ないように思う。

新婚四ケ月　お熱いお二人

―好きなテレビ番組は―

マンガ。息抜きによいので。特に「ゲゲゲの鬼太郎」がおもしろい。以前は「パーマン」を見ていた。

―好きな食物、嫌いな食物は―

好きな食物といっても、大体何でも食べる。ただ、たこのような長い物は好きじゃない。

―初恋はいつ頃ですか―

よくわからないが、小学校の頃同じクラスの女子に憧れを持って隣の席に坐りたかった。

奥様にお聞きしたい事があったけれど、私たちの居る部屋に出ていらっしゃらなかったので、先生から奥様に次のように三つの事を聞いていただいた。

―奥様からご覧になった先生は―

―先生の癖は何ですか―

―これから先、先生に望む事は―

奥様の返事は「日が浅いのでよくわかりません」という事だった。まだ、いろいと奥様にお聞きしたかったけれど、再び先生に質問することにした。

―男性のロングヘアーは―

あまり好きではないが、自分が良いと思ってやっているのだから仕方がない。人間は、表面よりも内面が大事だと思う。

―学生運動については―

学生と一般の大人との見解の相違だと思う。社会や制度に対して学生が疑問を持たない方がおかしい。

最後に勇気を出して恋愛ですかお見合いですかと聞くと、先生は少し照れて笑いながら「見合い」とおっしゃった。

私たちは二時間ほどおしゃべりした後、皆そろって写真を写して、先生のお宅をおいとました。

笑い初め
珍解答

A 人間はなぜ死ぬのか?
B 坊主が失業するといけないから。

○

A 夜がふけると眠くなるのはなぜでしょう?
B テレビが「お休みなさい」というからです。

○

A 人間の指はなぜ五本なのでしょう?
B 市販されている手袋がみんな五本だからです。

○

A 聖徳太子はなぜアゴひげをはやしているのか?
B あれがないと二セ札になるからです。

○

A 女性がサツマイモを好むのはなぜでしょう?
B オナラがしたいからです。

○

A 戦後二十余年いまだ住宅難が解消しないのはなぜでしょう?
B 宝くじが当たらないからです

若高戯評 募集!!

次号（一〇八号）の若高戯評募集、発行は五月中旬、それまでに18×16cmの大きさの紙に書いて応募してください。

新聞部より

品質で勝負
丸柏
中川通 (76) 1231

辞典と参考書
石松書店
本町四丁目 TEL (76) 2415

龍そば
本町銀座 TEL (77) 4320
TEL (77) 4047

やはり 進学 理工科系 就職 銀行・商事会社 の方向に

― 昭和43年度進学就職状況 ―

今年は進学では、理科系が目立ち、就職では銀行、商事会社への就職が増えて来ているようだ。東大の入試中止で、各大学の入試は激戦になるとか。しかし、先輩の皆さん、全力でガンバッテください。

43年度大学出願者

国立大学一期校

九州大学	36	長崎大学	18
宮崎大学	14	熊本大学	13
広島大学	10	高知大学	9
京都大学	7	岡山大学	7
九州芸工大	6	大阪大学	4
東京芸大	3	島根大学	3
神戸大学	2	新潟大学	2
北海道大学	2	金沢大学	1
千葉大学	1	東京水大	1
東京工大	1	お茶ノ水大	1
東北大学	1	徳島大学	2

国立大学二期校

九州工大	40	鹿児島大	34
山口大学	31	福岡教大	26
佐賀大学	18	大分大学	7
島根大学	6	愛媛大学	2
大阪外大	2	静岡大学	2
京都教大	1	山梨大学	1
秋田大学	1	山形大学	1
茨城大学	1	埼玉大学	1
電通大学	1	東外語大	1
東商科大	1	東農工大	1
横浜国大	1	室蘭工大	1

公立大学

北九州大	80	下関市大	17
福岡女大	9	姫路工大	4
大阪府大	4	長国経大	2
九州歯大	2	神戸商大	2
神戸外大	2	三重県大	2
愛知芸大	2	広島女大	1
京都美大	1	名古屋市大	1
静岡薬大	1	都立大学	1
高崎経大	1		

私立大学

西南学院大	52	福岡大学	52
同志社大	19	早稲田大	18
中央大学	13	関西大学	13
明治大学	11	法政大学	10
立教大学	15	日本大学	8
慶応大学	7	青山学院大学	7
八幡大学	8	国士館大	3
津田塾大	3	東海大学	3
東京工科大	4	神奈川大	4
大阪経大	4	大阪工大	3
近畿大学	4	松山商大	3
九州産大	4	久留米大	5
千葉工大	2	学習院大	2
成蹊大学	2	成城大学	2
多摩美大	2	国際基督教大	2
上智大学	2	東京農大	2
東京理大	2	武蔵美大	2

公立短期大学

福岡県立社保短大	17		
長崎県立短大	5	尾道短大	5
広島農短大	2	大分県立芸短大	2
東京都立航工大	2	京都女大	2

男子就職内定人員

求人会社名	採用人員
日本スチール	2
永田製作所	1
若松車輛	1
門司鉄道職員	1
八幡製鉄	1
日本鉄塔	1
大阪府警	1
武田薬品	1
関東自動車	1
計	⑩

女子就職内定人員

	採用人員
若松信用金庫	7
岡崎工業	4
植田製作所	4
福岡相互銀行	3
日本スチール	1
若松造船	3
大田商店	2
国家公務員	2
城水鉄工所	2
赤染医院	2
坂本歯科	2
東洋紡績	2
山口銀行	2
安川電機	2
触媒化成	2
資生堂	2
段谷産業	2
入江海運	1
北九州ナショナル販売	1
豊州段ボール工業	1
貴船商事	1
福岡電算センタ（北九州）	1
三国商事	1
日本板ガラス	1
辰巳商会	1
戸畑職業訓練所	1
上繁船舶	1
東海鋼業	1
尼崎コークス工業	1
福録商店	1
富士工業所	1
戸畑運輸製函	1
佐藤病院	1
住友銀行	1
富士銀行	1
旭硝子	1
日立金属	1
住友生命	1
西日本相互銀行	1
東海電極	1
福岡銀行	1
松下電器	1
鶴丸海運	1
日本木船	1
岩田屋	1
日本水産	1
新出光	1
三菱化成	1
芝浦電気	1
正金相互銀行	1
第一生命	1
大和証券	1
カネボウ化粧品	1
百代田製紙	1
キューピーマヨネーズ	1
八幡製鉄	1
日本鉄塔	1
若松車輛	1
日本スチール	1
永田製作所	1
計	87

SPOT

〝根性〟のタマモノ

今回のスポットは、先日、河口湖で開かれた第24回スケートの国体に、福岡県代表として我校の毛利富枝さんが出場されたのでそれを取り上げてみることにした。

県内からは、女子2名が出場し、試合は、1月25日から30日まで行なわれた。彼女の努力のかいあってか、規定で150人中、10位。高校2年生、しかも初出場にしては、みごとな成績をおさめた

ところでここまでの実力になったのは、どんな努力があったのか、インタビューをしてみた。

「まずはじめにスケートを初めたのは、いつですか」

「初めてスケートシューズをはいて滑べったのは小学校の4年生の時ですが、本格的にこれを始めたのは、中学2年の時です」

「どういう動機で初めたのですか？」

「別に〝これ〟といってありません。母がつれて行ったということ、自分でもやってみたかったということくらいかナ。アッそれから（少々テレながら）コーチが上手だったこと、それに、その中に1人あこがれの人がいたから」

「今までで一番苦しかったこと嬉しかったことは？」

「苦しいこと？多かったなーでも今になってみると、それも結構いい思い出となっています。でも、しいて上げるとすれば、試合前に熱があったのですが、スピン（片足でグルグル回ること）を何回もさせられて気分が悪くなって…。それから国体出場のための合宿の時の朝4時～6時までと夜9時～12時までの練習の苦しかったこと、これだけは今でも忘れられません。嬉しかったこと？それはなんといっても国体出場ですネ」

「スケートをやっていて今まで、どのようなことを学びましたか」

「（スパッと一言）根性です」

「今から先もスケートつづけて行きたいですか」

「やはりここまで来たらつづけたいですネ、でも私も女ですから結婚する時には、やめたいですネ」

他校訪問

ゆきとどいた校内

―若松商業高校の巻―

去る、二月十五日（土）、我々新聞部員は若松商業高校を訪問した。この日は、あいにく曇り空であったが、当校は我校と兄弟のようなものであって、一山越えた所にあると思うと、我々は空腹をこらえて駈け付けた。ここは、二島バス停から歩いて約十分の所にあり背後に花房山を見上げ、周囲を田畑に囲まれて、大変良い環境のもとにあり、その全容は、都会ではおそらく見られないだろう。

この学校の開校は、昭和三十五年四月一日で今から約九年前つい最近のように思われる。当校は我校の商業科が、当時、独立したのが現在の若商であるという事は諸君がご承知のことであろう。

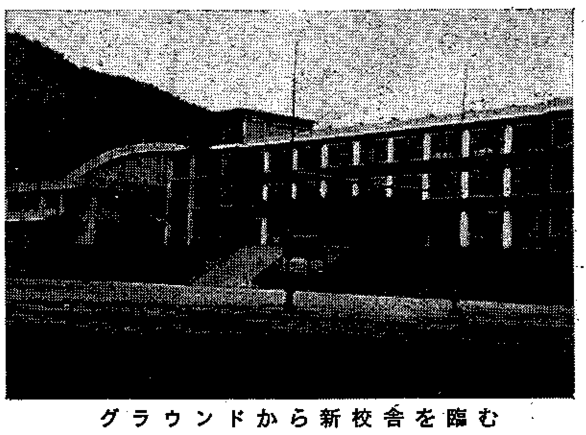
校舎はまだ新しく、本館など我校と引けをとらない程だ。校内を回って感じた事は、特別教室が数多く見られ、特に事務機械室簿記室、タイプ室、商品見本実験室実践室等は、初めて知った科目の教室であったので少々驚いた。これも商業学校の特色であろう。現在、図書室には、七千五百冊ほどの蔵書があって、二クラス分位の所にぎっしりとつめ込められていた。図書館の先生のお話では、この開校当時、若商から分けてもらった本が今もなお保管されているそうだ。さらに案内されて行くと噂に聞く食堂とやらが見えてきた。

生徒総数は、一〇一五人と割合に少なく、男女比二対三となっている。クラス編成は一年生から男女・女子クラスに分かれ、前者四クラス後者三クラスである。卒業後は就職が大部分を占め進学コースは一クラスあり、経営・経済などへ進むそうだ。

クラブ活動は珠算部が大変盛んで、現在九州二位の実力だそうだ。運動部では、籠球、排球（女子）卓球等。変わったクラブとしては、タイプ部、事務機械部などがある。

年中行事は大体我校と同じであるが、クラスマッチが色々とあり、特に正月のカルタ会などは大変楽しいそうだ。クラスマッチにおいてもやはり商業的色彩が強い。

それから生徒会組織も、又、我校と同じようであり、生徒の生徒会に対する感心が高いのか投書箱の投書が多いという。現在、長髪を認められた若高の影響を受けてか、その問題が芽を出し始めたそうだ。



グラウンドから新校舎を臨む

風紀では、盗難は少ないが遅刻が大変多く、遠方からの通学者が多い為か、それとも取り締りがきびしくないのか、百人を越すこともあり、一向に減らないそうだ。校内は掃除が行届いていた。これは男子が良くするそうで、やはり、女子の数が多いために男子が圧倒されたにちがいない！（冗談）

今、学校に対する要求としてはクラブの要求で、各クラブの部室が欲しく、今は、一つの部室をいくつものクラブが一緒に使用している状態だそうで、その他は別にないそうだ。

先生と生徒の間では、あまり交流がなく親密さがないが、生徒の話では、先生方の平均年令が若いせいか（くわしく言えば二十九・一歳という話）大変話しやすいと言っている。

若商生の話を聞くうちに、つくづく若商と我校とを切り離して考えて はいられない 気がした。

最後に若商の校訓。

〃学力の向上と品位の陶冶〃

多数の応募者 ―図書館より―

感想文・画八人が入賞

毎年、若松区学校図書館協議会が行なっている小中高の読書感想文・感想画コンクールにおいて、左記の人達が入賞した。感想画に応募したのは今年がはじめてであった。今後は西日本や全日本のこのようなコンクールにも多数応募入賞を期待する。

感想文
優秀　高瀬舟を読んで
一年　藤丸　智子
車輪の下
優良　二年　杉野　悟
「戯作三昧」を読んで
二年　香川　忠雄
佳作　「風と共に去りぬ」を読んで
一年　籔　千恵子

感想画
優秀　羅生門　一年　松尾　和代
人生論　三年　団野　博美
優良　夢十夜　二年　柴田　静乃
婁ゆえ　同　宮野喜代子
風と共に去りぬ
一年　上方　洋子

出足快調

剣道新人大会

去る二月二十三日（日）、県立築上中部高校において、北部地区剣道新人大会が行なわれました。本校も、先鋒中野君を筆頭に、大西、森、高橋、そして大将に長坂君を用し、大里、小倉、常磐、築上中部、東筑のなみいる強豪をしりぞけ、見事二連勝をとげました。しかしながら、常磐高校との一戦では、二対二で大将戦を迎え大将戦も延長の末、下すというきわどいものでしたが、中野君の鋭い飛び込みゴテ、下がり面、大西君の下がりゴテ、森君の変化面、高橋君の下がり胴、長坂君の長身からの飛び込み面は見学者を魅了した。今後予定される、全国大会九州大会、国体予選においても、きっと母校のために活躍してくれることでしょう。

編集後記

三年生のみなさん御卒業おめでとうございます。一〇七号はいかがでしたか？今号の記事は一年を主体として書かせてみました。又いつもの事ではありますが、今回も期末考査とぶつかり、満足な新聞とはいきませんでしたが、部員一同、一生懸命頑張って作ったものです。どうぞ一語一句かみしめて読んで下さい。

今号は、三年生にとってはもう最後の、又、一、二年生にとっても本年度最後の新聞となりました。そこで、一面のトップに〝卒業〟と、又、二面には、〝三年間を顧みて〟と題しまして、先生方の御祝いの言葉や、三年間の反省思い出などを掲載しました。これで最後の礫陵新聞ですのでどうぞ味わって読んで下さい。

本格派テクニックの店
アサヒラボ
本町三丁目

時計・メガネ・印章
マルミツ
若松区中川通り二丁目
TEL ⑦⑦ 2638

靴とカバンの店
ヒサヤ
本町銀座　TEL ⑦⑥ 5163